

意見交換の議事内容

Q. 災害公営住宅のイメージ図についてであるが、3階建の長屋タイプとなっている。高齢者が多い大槌町においては、階層が高い住宅であると、階段を上り下りすることが大変である。高齢者に対しては、1階の住宅を用意することを検討してほしい。

→A. 現在、様々なタイプの災害公営住宅を検討している。その中で、階層が高い住宅については、エレベーター付きのものも検討している。

Q. 沢山のみどり幼稚園から大槌川までの間の土地の嵩上げは行うのか。

→A. 想定される事業としては、土地区画整理事業となる。土地区画整理事業では、土地の嵩上げを行うことができる。今後、嵩上げの必要性を検討していきたい。

Q. 沢山地区の側溝に瓦礫や汚泥が溜まっている所がある。撤去・整備の予定はあるのか。

→A. 瓦礫や汚泥の撤去は、早期の住環境改善のための災害復旧の事業であると考えている。担当は地域整備課である。要望として伝えたい。また、このような話があれば、地域整備課に伝えてほしい。

Q. 生命と財産を守るとあるが、防潮堤や盛土だけでは、大きな津波が襲来した時に守りきれないのではないか。避難の方法も同時に考えていかなければいけない。

→A. 避難路・避難道・避難場所等については、防災計画で検討をしていくことになる。町の考え方としては、今回説明する土地利用の方針が決まってから、防災計画をつくっていくことになる。また、桜木町では地域住民独自に避難計画を策定することを検討しているようである。今後、住民のみなさんと議論して防災計画をつくっていきたい。

Q. 町方の復興計画の図面を見ると、JR山田線の山側と海側で、盛土などの土地利用が違うようになっている。JR山田線の存続の問題もあるので、その根拠を教えてください。

→A. 町の考えとしては、JR山田線の存続にかかわらず、このラインより山側の盛土を行うことで町方の浸水を免れると考えている。

Q. 沢山・源水・大ケ口の復興計画の図面を見ると、大ケ口のあたりで、大槌川の河川堤防の嵩上げが切れている所がある。東日本大震災では、大ケ口の町営住宅への浸水が大きかった。河川堤防の嵩上げを要望したい。

→A. 町管理の河川については、堤防嵩上げの検討を進めていきたい。

Q. 沢山の国道45号線の嵩上げの陳情は行っているのか。

A. 沢山近くの国道45号線については、14.5mの防潮堤を整備すると、シミュレーション上では浸水しないことになる。浸水しないと考えると、国道の嵩上げは二重投資になるという考えがある。陳情は行ったが、国からはこのような回答であった。

Q. 土地区画整理事業は、何年で事業が完了するのか。沢山地区では、早急に住宅を建てたい人と区画整理を待ってから住宅を建てたい人が半々の印象を受けている。住宅再建の目安となると思う。

→A. 土地区画整理事業は、平成 26 年 12 月から住宅再建可能となる。

Q. 文教ゾーンについてであるが、小中一貫校と高校が併設されると、グラウンドが広大となって土埃が巻き起こり、近隣の住宅の環境悪化につながるのではないかと心配している。分散することも検討してほしい。また、この大槌高校の近くではなく、もっと建設に適した土地もある（例えば字新山）。検討してほしい。

→A. 担当の教育委員会に意見を伝えたいと思う。

Q. 昨年の 10 月～12 月までの協議会では、減災に重点を置いたまちづくりの意見もあった。防潮堤や盛土に頼らない復興もあるのではないかと期待している。若い世代から意見を聞くことも検討してほしい。

→A. この計画が最終決定ではない。これからみなさんの意見を聞いて、計画づくりを進めていきたい。